

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：大橋川改修に係る環境保全措置について	
水系/河川名：斐伊川水系大橋川	河川分類：大河川
河川の流域面積：2540km ²	整備計画流量：なし
セグメント：3	
事業：河川改修	事業開始年度 平成23年度
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種・特定動植物の保全、湿地、ヨシ原の保全・再生・創出	
工法(主な)：築堤、引堤、掘削(高水敷)、掘削(低水路)、掘削(河床)、護岸整備、移植、植樹	
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、施工管理、委員会、協議会等の開催、その	

背景・課題、目標設定

＜背景＞斐伊川水系大橋川では、宍道湖を含め全川にわたって洪水時の水位を低減させるための河川改修を実施しており、改修による中海、宍道湖を含む汽水環境に与える影響について調査・予測・評価を行い、必要な環境保全措置を実施することとしている。現在は、大橋川の生物の生息・生育・繁殖環境として重要であり水際に多く繁茂しているヨシ、コアマモを築堤護岸工事と合わせ、学識者の意見等も聞きながら様々な方法で移植を実施、その後のモニタリング調査等を実施している。

＜目標＞ 今後の汽水環境におけるヨシ・コアマモの効率的・効果的な環境保全措置について検討を行う。

＜課題＞



①ヨシ移植箇所において、基盤の低下が発生し、ヨシの生育不良が見られた。

②コアマモ移植箇所においてシオグサが堆積し、コアマモの光合成を阻害する状況が見られた。

③コアマモの移植には多大な労力を要しており、作業の効率化が課題であった。

取り組み内容・対策例

＜課題①～③に対する取り組み内容＞



①基盤の嵩上げとヨシの種の播種を実施した。

②シオグサを部分的に除去し、除去しない区間との対比をモニタリングした。

③重機を用いた様々な方法で移植を試行した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜課題①～③に対するモニタリング結果＞

<p>①汽水域における抽水ヨシの保全においては基盤の高さが重要であり、ヨシが冠水しない高さから陸域の競合種が分布しない高さにおいて保全措置を実施することが重要であることが分かった。</p>	<p>②H27年にシオグサが繁茂したが、その後のモニタリングにおいて、除去の有無による生育状況の違いが見られなかった。シオグサの繁茂期間については今後も注視していく必要がある。</p>	<p>③これまでコアマモの移植について知見が少なかったが、重機を用いた全ての移植方法で生育面積の拡大が確認された。特にベッセルを使用した移植手法は作業効率に優れ有用な移植手法であると思われる。</p>
--	--	--

＜まとめ＞

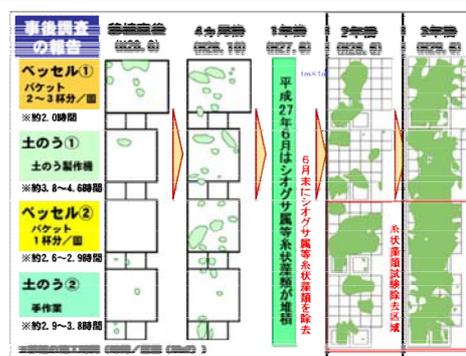
- ・大橋川で移植を実施しているヨシ・コアマモについて、移植手法においては一定の知見が得られ、ある程度手法が確立された。
- ・3年間のモニタリングにおいて、一部のヨシの基盤の低下などが見られるものの、全体的に活着・生育範囲の拡大及び、ヨシ・コアマモを生育基盤とする生物が確認されている。
- ・シオグサの堆積によるコアマモへの影響や、ヨシ移植基盤の変動について引き続きモニタリングを実施し、必要に応じ対策を検討していく必要がある。



コアマモを生育基盤とする生物 シモフリマハゼ



ヨシを生育基盤とする生物 カワザンショウガイ類



備考